

平成24年度

道徳

会報 No. 8

心輝け 子どもたち！

名古屋市道徳研究会

会報

道徳の時間の工夫がいっぱい！

- 9ページ 文部科学資料「苦しいときだからこそ」より（他教科との関連）
- 13ページ 明るい人生1年「無人スタンド」より（行事との関連）
- 17ページ 明るい心3年「まち合わせ」より（書く活動の工夫）
- 21ページ 明るい心5年「シンガポールの思い出」より（表現活動の工夫）



明日からの授業に

お役立てください！！

【CD-ROM付き】



今すぐ実践できる指導案

ワークシート・読み物資料等

目 次

は じ め に

全体テーマについて P. 1

テーマ研究部会 P. 2

授業づくり研究部会 P. 16

本年度のあゆみ P. 30

あ と が き

CD-ROMの内容

- ・ 「**道徳の時間**」を要とする道徳教育
ー「**規範**」の関連プログラムー**参考例集と指導案**
- ・ 子どもが“**ときめく**”道徳の授業
ー自ら考えたくなる指導方法の工夫ー
指導案・ワークシート集
- ・ 中学校読み物資料集（文部科学省）
- ・ 平成23年度研究会報（昨年度の会報）

**授業実践，現職教育などに
是非ご活用ください！**



は じ め に

私がバスに乗っていて、何気なく窓の外を見ていた時のことです。歩道を重そうなカートを引きながら、片手で持ったつえを振り回して、何やらバスに向かって叫びながら走っているおばあさんの姿が目にとまりました。曲がった腰を精一杯伸ばしながらの走りで、私には随分と年配の方に見えました。

バスは、100m程先のバス停に到着しました。バス停には乗車する人はいなかったのですが、この運転手さんは、先ほどのおばあさんを待っています。「そうだな、普通気が付いていれば待ってあげるだろうな」と予想通りの行動と思いつつも、「いい運転手さんだな」と思いました。それだけで、心がふっとうれしい気持ちになったのですが、もっと心が温まるうれしいことが起きていました。

運転手さんが、車外のマイクを使って、大きな声で「慌てなくていいですよ。ゆっくりでいいですよ。待ちますので」と伝えていたのです。これには、私も予想外の優しさに驚きました。バスに乗車したおばあさんは、ほっとした様子で、「ありがとうね、ありがとうね」とお礼の言葉を何度も何度も繰り返していました。

私は気が付かなかったのですが、そのおばあさんの後から一緒に走っていたお連れの方が二人乗られました。座席に座ってからも、三人で「ええ運転手さんでよかったわあ」「よかったなあ」「こういう運転手さんは表彰してもらわなかなあ」と、元気な口調でにぎやかに話し、バスの車内はもちろんのこと乗客の皆さんの心も明るく温かい雰囲気になりました。

「思いやり」とは、「相手がしてほしいと願っていることを察して心を配ること」と、かつて道德研究会の先輩に教わりました。前述の運転手さんは、まさにおばあさんの「待ってほしい」と願う気持ちにこたえ、思いやりのある言動をとられたのだと思います。また、その言動をととてもうれしく感じて感謝の気持ちを表すおばあさんたちの言動も素晴らしいと思えました。こうした心のやりとりこそが、人が生きていく上でとても大切なことであると私は感じました。

さて、子どもたちの心の教育の中心となって活動している名古屋市道德研究会では、道德の時間を要として、人としてよりよく生きようとする力を育てる道德教育に長年に渡って研究してきています。

本年度、授業づくり部会では「子どもが“ときめく”道德の授業～自ら考えたい指導方法の工夫を通して～」をテーマに掲げ、素朴な疑問を基に具体的な指導方法について研究を深めました。

また、テーマ研究部会では、『『道德の時間』を要とする道德教育の工夫～『規範』の関連プログラムづくりを通して～』について研究を深めました。

両研究とも、子どもたち自身が自分の人生や生き方についての考えを深めていくための素晴らしい研究内容となっています。ぜひ、本会報をお手元においていただき、授業にご活用いただければ、部員にとってこの上ない喜びになります。さらに、先生方のお役に立てるようにと、指導事例等収録したCD-ROMを付録としました。併せてご活用ください。

最後になりましたが、研究の推進並びに会報刊行に際して、ご指導ご助言くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。また、本研究会の役員・部員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

平成25年1月

名古屋市道德研究会顧問
名古屋市立陽明小学校長
安 田 隆

1 テーマ

「心輝け 子どもたち！」

2 テーマの主旨

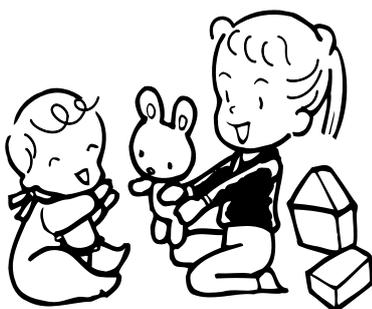
児童生徒の心身の成長に、道徳教育が果たす役割と責任は、これまで以上に大きいものとなっています。私たち教師は要となる「道徳の時間」をより充実したものにすることが大切です。

毎日の生活の中で、子どもたちは素晴らしい笑顔を見せてくれます。私たち教師、保護者、そして、地域の方は、子どもたちの笑顔に、安らぎを感じ、心が洗われたような気持ちになります。時には、その笑顔に励まされ、明日への活力をもらったこともあるはずです。

子どもたちの笑顔、それはまさに宝物であると言えます。

ところで、子どもたちの笑顔はどこからくるのでしょうか。それは、純真な心を持ち、まっすぐに今を生きているところにあるのではないのでしょうか。そのような子どもたちが、周りの人たちと笑顔いっぱい、夢や希望に向かって一歩ずつ歩んでほしい…。

私たちは、子どもたちが「未来に向かって前向きに進もう！」と考えることができたときを、「心が輝いている」と捉えました。子どもたちが笑顔いっぱいの生活を送ることができるよう、実践を積み重ねていきたいと考えます。



「道徳の時間」を要とする道徳教育の工夫 －「規範」の関連プログラムづくりを通して－

I はじめに

世界の中で日本人の規範意識の高さが評価されています。2011年3月11日、東日本大震災で日本は多大な被害を受けました。都心部では、携帯電話が繋がらず、人々は公衆電話に並びました。誰も割り込むことなく、きちんと列をなして、長時間並んでいたのです。このような秩序ある行動は、まさに日本人の規範意識の高さを物語るものであると思います。私たちは、人間のもつよさを改めて認識することができました。



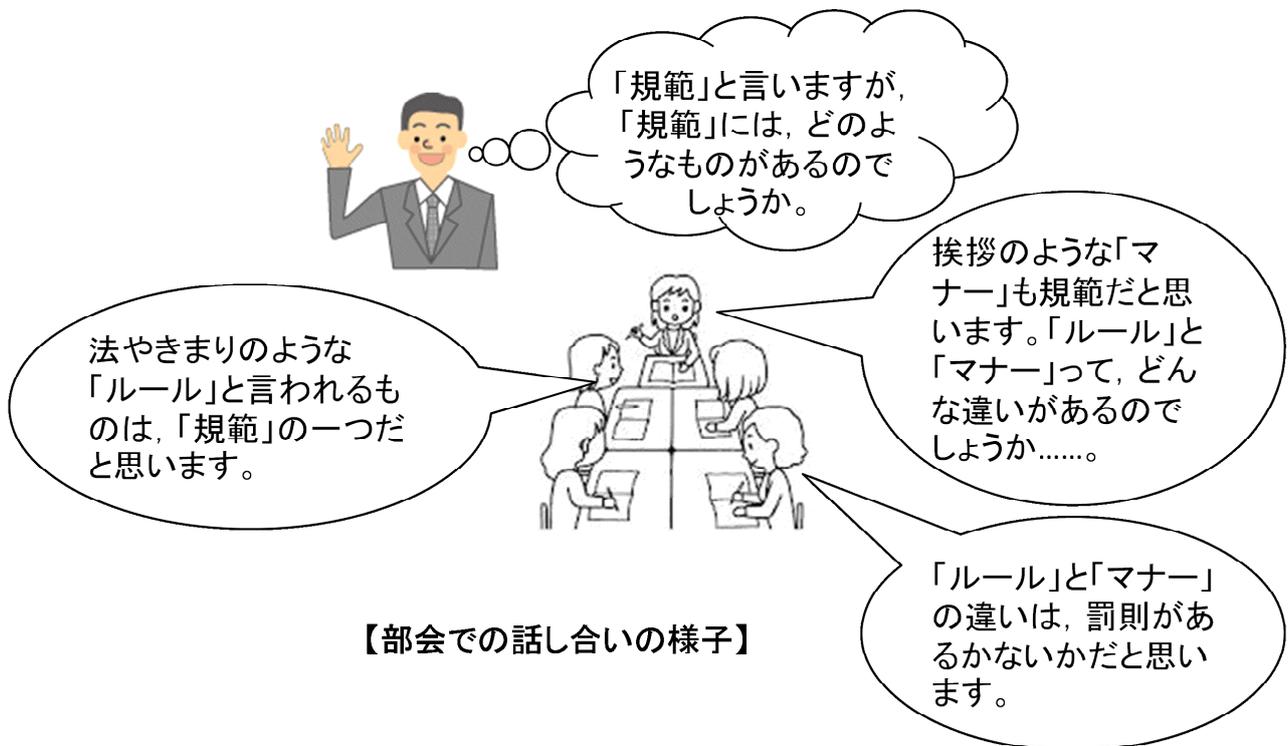
一方で、若者や子どもの規範意識が低下しているとも言われます。例えば、電車やバスなどの中で、周りの人たちへの迷惑を省みず、イヤホンから音が漏れ出しているというような場面に出合います。また、今の子ども現状として、「周りの人もしているから、自分もしていい」「どうして自分だけが注意されなければいけないのか」といった、自己中心的な考え方が見受けられます。

『小学校学習指導要領解説道徳編』の「道徳教育改訂の趣旨」（4ページ）には、「基本的な生活習慣や人間としてしてはならないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識，自他の生命の尊重，自分への信頼感や自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養う」とあります。子どもの規範意識を高めることは、昨今の重要な課題になっています。

そこで、本部会では、若者や子どもの規範意識の低下を憂慮するのではなく、冒頭で示したような人間のもつよさに目を向けることにしました。そして、道徳教育を通して「規範の意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる子ども」を育てたいと考えました。小・中学校段階から、子どもの規範意識を高めていけば、日常生活においても、人間のもつよさを発揮させることができると考えました。

II 「規範」をどう捉えるか

「規範」とは、一体何なのでしょう。大辞林には「行動や判断の基準となる模範。手本。」とあります。私たちは、部会で「規範」とは何かについて話し合ってみました。



本部会では、「規範」を大きく「ルール」と「マナー」の二つから捉えました。

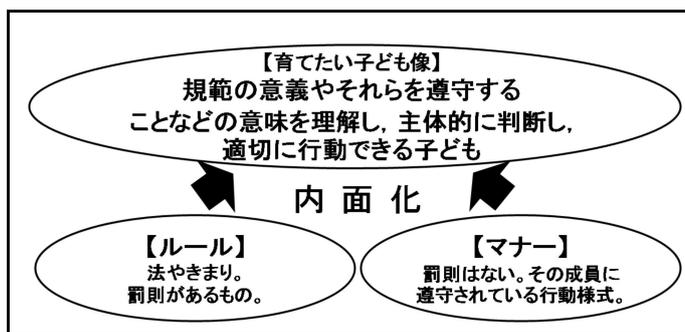
<p>ルール… 罰則がある。 法やきまりなど。</p> <p>マナー… 罰則はない。 文化の違いにより異なる場合がある。</p>	<p>【「規範」とは】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【ルール】 法やきまり。 罰則があるもの。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【マナー】 罰則はない。その成員に 遵守されている行動様式。</p> </div> </div>
--	--

「ルール」と「マナー」の違いをたばこの「ポイ捨て」を例に考えてみましょう。たばこの「ポイ捨て」をしないことが「マナー」として定着しなかったために、2007年から名古屋市でも、条例で違反者から過料が徴収されることになりました。これは「マナー」が「ルール」になった例です。

III 規範意識を高めるには

ルールやマナーのような規範について、いくら知識として知っていても、規範意識が高まっているわけではありません。また、行動として表向きの形が整っているように見えても、必ずしも規範意識が高まっているとは言えません。

では、子どもの規範意識を高めるには、
 どうしたらよいのでしょうか。規範意識
 は、規範に基づいて行動をする人の内面
 的な価値意識を意味しています。規範を
 自分との関わりの中で捉え、自分自身の
 生き方として本当に大切であると感じた



ときに、規範を納得して受け入れ、自らの行動や在り方を変えていきます。したがって、規範を内面化させることが重要なのです。

『小学校学習指導要領解説道徳編』（23 ページ）には、「道徳教育は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うとともに、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。その中で、道徳の時間は、（中略）各活動における道徳教育の『要』として、それを補充し、深化し、統合する役割を果たす」とあります。今日的な課題として、「道徳の時間」を要とした各教科等における道徳教育の推進が重視されていると言えます。

そこで、「道徳の時間」を要として、各教科等の学習や体験活動と「道徳の時間」とを意図的に関連させた道徳教育が、子どもの規範意識を高めるのに有効であると考えました。本部会では、「ルール」と「マナー」の二つの視点から、各教科等の学習や体験活動と「道徳の時間」とを関連させた道徳教育の指導計画を「規範」の関連プログラムと名付け、実践に取り組みました。

IV 「規範」の関連プログラムで重点とする指導内容

本部会では、「ルール」と「マナー」の二つを学年段階に応じて、効果的に組み合わせることにより、子どもの規範意識を高めたいと考えました。各学年段階で重点となる指導内容を次のように考えました。

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
ルール	1－(3) 勇気	1－(3) 勇気	1－(3) 自由・規律	1－(3) 自律の精神
	4－(1) 公德心	4－(1) 公德心	4－(2) 公正・公平	4－(1) 遵法
マナー	2－(1) 礼儀	2－(1) 礼儀	2－(2) 思いやり	2－(2) 人間愛
	4－(1) 公德心	4－(1) 公德心	4－(1) 遵法、公德心	4－(2) 公德心

V 授業研究での実践 【第6学年の「規範」の関連プログラム】(※①②…は実践順)

「道徳の時間」が、扇の要となり、道徳的価値を補充・深化・統合します。

1 学 期	<p>「関連プログラム」その1「ルールはどうしてあるの？」</p> <p>【ねらい】 学級や学校，社会など，集団生活には，みんなが気持ちよく生活できるように，法やきまりのような「ルール」があることに気付く。また，主体的に「ルール」を守っていこうとする意識をもつ。</p>	<p>児童の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集団生活にはルールが必要だな。 ○ みんなが気持ちよく生活できるようにルールがあるんだな。
2 学 期	<p>「関連プログラム」その2「マナーって何？」</p> <p>【ねらい】 「ルール」がない場面でも，「マナー」を守って，周りの人のことを考えて行動しようとする意識を高める。また，マナーを大切にする思いを受け継いでいこうとする心情を高める。</p>	<p>児童の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの人のことを考えて行動しよう。 ○ ルールがない場面でも，マナーを守ることが大切だな。
3 学 期	<p>「関連プログラム」その3「みんなが気持ちよく暮らすためには」</p> <p>【ねらい】 「ルール」も「マナー」も，みんなが気持ちよく生活できるようにあるということに気付く。また，ルールやマナーを守り，よりよい集団にしていこうとする意識を高める。</p>	<p>児童の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ルールもマナーも，みんなが気持ちよく生活できるようにあるんだな。 ○ ルールやマナーを守り，よりよい集団にしていこう。

【マナー】に重点を置いた関連プログラム
小学校6年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

「ルール」がない場面でも、「マナー」を守って、周りの人のことを考えて行動しようとする意識を高める。また、マナーを大切にする思いを受け継いでいこうとする心情を高める。

① 社会科

「江戸の文化」（1時間）

江戸しぐさに込められた江戸の人々の思いを想像し、受け継がれてきたマナーについて考える。



② 学級活動

「運動会を盛り上げよう」（1時間）

応援には、相手のチームの健闘を祈るエールもあることを知り、その意義について考える。



③ 道徳

「シンガポールの思い出」（1時間）

4－(1) 遵法

公德心をもって法やきまりを守り、進んで社会の義務を果たそうとする気持ちに気付く。



④ 総合的な学習の時間

「わたしたちの当たり前は世界の当たり前？」（13時間）

日本と世界の国々のマナーについて調べ、その違いに気付くとともに、マナーに共通する人々の思いについて考える。



⑤ 道徳

「苦しいときだからこそ」（1時間）

4－(1) 公德心

どんな時でも、周りの人のことを考えて行動することの大切さに気付き、これからも公德心をもって行動していこうとする心情を高める。



道徳「苦しいときだからこそ」4-(1) 公德心

（出典：「小学校道徳読み物資料」文部科学省）

ねらい どんなときでも、周りの人のことを考えて行動することの大切さに気付き、これからも公德心をもって行動していこうとする心情を高める。

【展開前段】○ 資料を読み、給水車に並ぶ人々の気持ちや考えを話し合う。（抜粋：中心場面）

【発問】 どうして、人々は、給水車の前にきちんと列をなして並ぶことができたのでしょうか。



《給水車に並ぶ人々の写真》

自分もみんなも（喉が渴いているのは）同じだから。



みんなを思いやることが大切だから。



【発問】 「並ぶことはみんなが生きること」という言葉で、お父さんはどんなことを伝えたかったのでしょうか。

社会科の「江戸しぐさ」でも考えたことと同じで、相手を思いやる気持ちを伝えたかった。



他の人の気持ちになって考えてほしいということが伝えたかったのだと思う。



【発問】 相手を思いやったり、他の人の気持ちになって考えたりする人が増えたら、周りの人はどうなるかな。

みんなが気持ちよくなる。



【児童の様子】 給水車が来たときの場面で、「独り占めしたい」「僕が先だ！」などの自己中心的な考えをしっかりと捉えさせたことで、周りの人を意識した考えをもち、並ぶことの大切さに気付くことができた。特に、児童は、長蛇の列を作って給水車に並ぶ人々の写真に驚き、そこまでして並ぶことができた心情を、真剣に考えることができた。

[展開後段] みんなが気持ちよく生きるには、どんなことが大切であるかを話し合う。

【発問】 みんなが気持ちよく生きるには、どんなことが大切でしょうか。

自分の思いも大切だけど、相手はどう思っているかを考えることも必要だと思います。



自分から行動することが大切。また、自分だけではないという気持ちをもつことも大切。



・おたがいに思いやる気持ちをもつて、1人が意識することで、江戸しぐさのように自然に広まると思う。自分のことばかりではなく人のことも考える。

前の学習のときに考えたように、相手を思いやる気持ちが大切。みんながみんなのことを思いやるれば絶対に気持ちよく生きることが出来る。みんなが平等にうれしさや喜びを持つことが大切で一人が満足してもみんなが満足できない。

《児童の「道徳ノート」の記述》

[終末] みんなが気持ちよく生きることにつながる行動や思いが伝わる写真を見る。



みんなの行動の中に気持ちよく生きることにつながる行動や思いを見つけたので紹介するよ。

[児童の様子] 「道徳ノート」には、「江戸しぐさのように」「運動会の応援の時と同じように」など、「関連プログラム」の学習を想起しながら考えを書いた内容も多くあった。児童は、これまでの学習で、周りの人のことを考えて行動することの大切さを実感していたが、自分たちにも、みんなが気持ちよく生きることにつながる行動や思いがあることに気付いて、感動する姿が見られた。

「規範」の関連プログラムの成果

道徳「シンガポールの思い出」でルールとマナーについて考えさせたため、「並ぶ」という行為が、ルールがあるから行われているのではなく、周りの人のことを考えた上での行動であることを捉えやすくすることができた。また、社会科や総合的な学習の時間で、マナーに共通する思いは、時代や国が違っても同じものであることを学んだため、どんなときにも、思いやることが大切であることに気付かせることができた。このように、「道徳の時間」を要としながら、各教科等の学習と意図的に関連させたことで、マナーを守って、周りの人のことを考えて行動しようとする意識が高まったと考える。

【ルール】に重点を置いた関連プログラム
小学校1年生〔9～11月〕

プログラムのねらい

きまりや約束を守ることの大切さを感じ取り、それらを守って生活をしようとする意識をもつ。また、安全に生活したり、みんなの物を大切にしたりするために、よく考えて行動しようとする心情をもつ。

① 国語科

「おはなしきいて」(6時間)

話すとき、聞くときの基本的な約束を知り、相手に分かるように話すことができるようにする。



② 道徳

「ぼんたとかんた」(1時間)

1-(1) 自制

安全のきまりを守る大切さが分かり、自分でよく考えて、行動しようとする気持ちをもつ。



③ 生活科

「あきみつけ」(5時間)

東山公園への校外学習を通して、地下鉄や公共の施設の使い方を身に付けることができる。



④ 体育科

「中あてドッジボール」(9時間)

みんなで決めたルールを守って、みんなと仲良くドッジボールをするとともに、協力して用具の準備や片付けをしようとする。



⑤ 道徳

「きいろいべんち」(1時間)

4-(1) 公德心

みんなで使う物を大切にしなければならないことが分かり、みんなのことを考えて使おうとする気持ちをもつ。



小学校1年生(2学期)の「関連プログラム」の要となる道徳授業

主題名 きいろいべんち〈4-(1)公德心〉(出典:「明るい心1年」県教振)

ねらい みんなで使う物を大切にしなければならないことが分かり、みんなのことを考えて使おうとする気持ちをもつ。

指導過程

学習活動・発問	◆関連 ○指導上の留意点 ・児童の反応
1 ベンチのある場所と役目を考え、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ベンチは、どこにありますか。何のために置いてあるのでしょうか。</div>	○ 児童に、使う人を具体的にイメージさせ、資料の内容につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・公園で疲れた人が休むため。 ・駅で電車を待つ人が座るため。
2 資料「きいろいべんち」を読み、登場人物の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ともことたかしは、どんな気持ちで紙飛行機を飛ばしていたでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">女の子のスカートの泥を落としているとき、おばあさんはどのようなことを思っているでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ともことたかしがはっとして顔を見合わせたときに、二人は、何を思ったでしょう。</div>	○ ともことたかしが、周りのことをよく考えずに夢中になってベンチの上で遊んでいることを押さえる。  <ul style="list-style-type: none"> ・高い場所を見つけた。遠くまで飛ばすぞ。 ○ 困っている立場に目を向けさせるために、おばあさんの気持ちを想像するように声を掛ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・すごく汚くなってしまった。 ・もう、こんなところに座って! ・だれかしら、ベンチをこんなに汚したのは。 ○ 「自分たちのしたこと」「相手のことを考えて」「みんなで使う物」など、発言の種類で板書をまとめる工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・汚れた靴で乗ってはいけなかった。 ・女の子とおばあさんに悪いことをした。 ・ブランコに立って乗ってはいけない。
3 みんなで使う物について、これまでの行動を振り返り、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">みんなで使う物を大切にできたと思うことはありますか。</div>	○ みんなが使うことを考えた発言を取り上げて称賛し、児童の実践意欲を高める。 ◆ ルールが守れていた時の写真を提示して、学校の物を使う場面や校外学習の地下鉄や東山公園での様子を振り返らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物園でごみを出さずに使うことができた。
4 教師の説話を聞く。	○ 身の回りで大切に使われている物を紹介し、みんなのことを考えて使おうと呼び掛ける。

「規範」の関連プログラムの成果

ルールが守れていた時の写真を提示して、日常生活指導や教科等の指導と関連させて、ルールを守ることの大切さについて話し合った。児童は、みんなの物を、次に使う人のことを考えて使おうとする意識を高めることができた。授業後に、みんなで実践する期間を設けたり、帰りの会で振り返りをしたりしたことで、意識が持続できた。

【ルール】に重点を置いた関連プログラム
小学校3年生〔9～11月〕

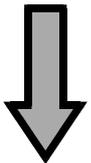
プログラムのねらい

みんなが楽しく活動するには、参加しているみんなが「ルール」を守る必要があることに気付き、様々な場面で「ルール」を守って行動しようとする意識を高める。

① 理科

「風やゴムのはたらきをしらべよう」(9時間)

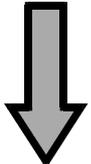
グループで競い合いながら、ルールを守って、みんなでゲームを楽しもうとする。



② 体育科

「キックベースボール」(8時間)

ゲームのルールを守り、励まし合って運動したり、勝敗の結果を受け入れたりしようとする。

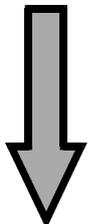


③ 道徳

「よわむしたろう」(1時間)

1- (3) 勇気

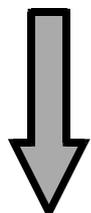
正しいことを見極め、勇気をもって行動しようとする
気持ちを高める。



④ 学級活動

「お楽しみ会をしよう」(2時間)

学級みんなで遊ぶときに必要なルールについて話し合
い、決めたルールを守って、楽しく活動しようとする。



⑤ 道徳

「はくぶつかんたんけん」(1時間)

4- (1) 規則の尊重・公德心

きまりの大切さに気付き、進んできまりを守っ
て行動しようとする気持ちを高める。



小学校3年生(2学期)の「関連プログラム」の要となる道徳授業

主題名

はくぶつかんたんけん〈4-(1)規則の尊重〉(出典:「明るい心3年」県教振)

ねらい

きまりの大切さに気付き、進んできまりを守って行動しようとする気持ちを高める。

指導過程

学習活動・発問	◆関連 ○指導上の留意点 ・児童の反応
<p>1 見学するときの約束を想起する。</p> <p>博物館を見学するとき守るとよい約束とはどんなことでしょう。</p>	<p>○ 児童の経験から見学の際の約束を思い起こさせ、資料への興味を高める。</p> <p>・静かに見学する。 ・走らない。</p> <p>・自分勝手なことをしない。</p> 
<p>2 資料「はくぶつかんたんけん」を読み、主人公の気持ちを考える。</p> <p>けんじは、どんな気持ちで「ああ、わかってるよ…」と、心の中でつぶやいたのでしょうか。</p> <p>ゲームがあると聞いたとき、けんじの頭にはどんなことが浮かんだでしょう。</p> <p>たくやの言葉に、けんじはどんな気持ちで「うん。」と答えたのでしょうか。</p> <p>病院のベッドの上で、けんじはどんなことを考えたでしょう。</p>	<p>○ けんじは、博物館を見るとききまりを覚えていたことを押さえた上で、早く見学をしたくてうずうずしている様子をつかませる。</p> <p>・いちいち言わなくても知ってるよ。</p> <p>・早く見に行きたいなあ。</p> <p>○ けんじの心が動いた場面を押さえることにより、ついきまりを破ってしまったけんじに共感させる。</p> <p>・ゲームならやりたいなあ。</p> <p>○ 「ゲームをしたい」と「きまりを守る」の二つの気持ちを視覚的に表現できるようにして、けんじの気持ちをじっくりと考えさせる。</p> <p>○ けんじが自分の行動を振り返る場面を考えさせることにより、きまりの必要性に気付けるようにする。</p> <p>・きまりを守れば、けがなどしなくて済んだな。</p> <div data-bbox="1150 887 1390 1299"> <p>ゲームをしたい</p> <p>きまりは守らないといけないけどゲームはすごくやりたいなあ。</p> <p>きまりを守る</p> <p>【けんじの心の中を視覚的に表して考える様子】</p>  </div>
<p>3 きまりの大切さを感じた経験を発表する。</p> <p>きまりを守らないで失敗してしまったことや、守ってよかったということはありませんか。</p>	<p>◆ 日常の様々な場面にあてはめて、きまりを守る大切さやよさについて考えられるようにする。</p> <p>○ そのときの気持ちやどうすればよかったと思うかなどにもふれ、これからはきまりを守ろうという気持ちが高まるようにする。</p> <p>・勝手に行動したら、道に迷ってしまった。</p>
<p>4 教師の体験を聞く。</p>	<p>○ きまりを守るよさを感じられるように、きまりを守って助かったという経験を話す。</p>

「規範」の関連プログラムの成果

まだ自己中心的な気持ちが強く、遊びの中で誰かがルールを守らず、みんながつまらなくなるという体験をよくしていた。プログラムを通して、ルールを守る大切さに気付き、誰もが楽しめるルールを話し合っ決めていこうという雰囲気が生まれてきた。

【マナー】に重点を置いた関連プログラム
中学校1年生〔9～11月〕

プログラムのねらい

「マナー」を守る意義について考え、話し合う活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。また、他者を尊重しながら、時と場合に応じ、適切に判断し、行動しようとする意識を高める。

① 学級活動

「学級のルールを見直そう」(1時間)

学級のルールを見直すことで、みんなが安心して気持ちよく過ごせる学級について話し合う。



② 社会科

「中世の日本と世界」(15時間)

封建社会を学習する中で、武士の礼儀作法について取り上げ、相手を尊重する精神を学ぶ。



③ 道徳

「カーテンの向こう」(1時間)

2-(2) 人間愛, 思いやり

どんなときでも互いに思いやり, 明るい希望をもって助け合おうとする気持ちを高める。



④ 総合的な学習の時間

「合唱コンクールを成功させよう」(4時間)

自分が果たすべき役割やマナーを守ることの大切さについて考えて, みんなの力で合唱コンクールを作り上げていくことができる。



⑤ 道徳

「無人スタンド」(1時間)

4-(2) 公德心

社会の一員であるという自覚を深め, 公德心をもって行動しようとする気持ちを高める。



中学校1年生(2学期)の「関連プログラム」の要となる道徳授業

主題名 無人スタンド〈4-(2)公德心〉(出典:「明るい人生1年」県教振)

ねらい 社会の一員であるという自覚を深め、公德心をもって行動しようとする気持ちを高める。

指導過程

学習活動・発問	◆関連 ○指導上の留意点 ・生徒の反応
<p>1 無人スタンドについて、どのようなものか理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">無人スタンドについて知っていることを発表しましょう。</div>	<p>○ 写真を提示して、イメージを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことがある。 ・野菜とかが売られている。 ・盗まれたりしないのかな。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>
<p>2 資料「無人スタンド」を読み、主人公の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">少年の行動を見て、どんなことを思ったでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">千葉さんの言葉を聞いて、どんなことを感じたでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">少年に会おうと決意をしたのはなぜでしょう。</div>	<p>○ 「わたし」の思いについて焦点を当てて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意した方がいいのかなと戸惑っている。 ・知らなかったのかもしれない。 <p>○ 千葉さんの考えを聞いた「わたし」の気持ちを感じ取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり注意した方がよいと思う。 ・少年のためには注意しないと。 <p>○ 声を掛けられなかった自分の行動への反省と、このままにはしておけないという義務感があることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いていなかったら教えてあげよう。 ・きちんと払うことが当然だと思う。
<p>3 マナーを守るということがどういうことかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">人の迷惑な行動を目にしたたり、自分がやっちゃったりしたことはありますか。</div>	<p>◆ 総合「合唱コンクールを成功させよう」と関連させる。</p> <p>○ 合唱コンクールで自分たちのできたマナー、できなかったマナーについて考えさせることで、公德心の大切さに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のクラスが歌っているときに、聴く態度がよくなくて、先生に怒られてしまった。 ・自分も、周りの人につられてしまい、よくなかったなあと反省した。
<p>4 公德心についての教師の説話を聞き公德心をもって行動しようとする気持ちを高める。</p>	<p>○ 自分が少し意識するだけで、マナーは守られることに気付かせ、自己の言動を戒めることができるように意識付けさせる。</p>

「規範」の関連プログラムの成果

日頃から学級づくりをしていく中で、マナーについてふれたことで、「周りに迷惑をかけない」「みんなが気持ちよく生活できるように」という意識を高めることができた。学校生活の場面以外でも、自発的に声掛けをして、互いに注意し合う姿が見られるようになった。

Ⅶ まとめ

『道徳の時間』を要とする道徳教育の工夫ー『規範』の関連プログラムづくりを通してーをテーマに、「規範」を「ルール」と「マナー」の二つの視点から捉え、他教科等の学習や体験活動と、道徳の時間とを意図的に関連させた「関連プログラム」を構成し、実践に取り組んできました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

成 果

- 「規範」を「ルール」と「マナー」の二つの視点から捉えさせたことで、子どもたちは、規範を身近なものとして考えることができました。
- それぞれの発達段階を考慮して、規範を様々な道徳的価値から考えさせたことで、子どもは自分との関わりの中で規範について考えることができました。
- 規範について、道徳の時間を要に、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等と道徳の時間とを意図的に関連させた「関連プログラム」を構成し、実践に取り組むことは、子どもの規範意識を高めるのに有効でした。



課 題

- 各学期ごとに一つずつ「関連プログラム」を構成しましたが、発達段階に応じて、年間を通してのプログラムを柔軟に計画することで、それぞれの「関連プログラム」を構成するのが容易になると考えます。



Ⅷ おわりに

「規範」の関連プログラムを実践した先生の感想です。

「規範」について、「ルールがあるから、ルールを守らなければならない」とだけ考えていた子どもたちが、「関連プログラム」を実践したことで、「ルールがあるなしに関わらず、迷惑をかけないように、周りの人のことを考えることが大切だ」という考えがもてるようになりました。

この会報を参考に皆さんもぜひ実践してみてください。

子どもが“ときめく”道徳の授業 —自ら考えたくなる指導方法の工夫を通して—



I はじめに

「道徳の授業で、もっと考えたいと笑顔を見せて自分から追求する子」「資料を通して考えながら、瞳を輝かせ、自ずと自己の生き方を語り始める子」私たちは、これらを“ときめく”姿と考え、“ときめく”姿を道徳の授業で見せてくれる子を育てていきたいと願っています。

そして、この“ときめく”姿は、平成24年度の名古屋市努力目標の「広がる笑顔 輝く瞳」につながるものであると考えます。

しかし、部会では「道徳の授業を終えると『やっと終わった』と退屈そうな姿を見せる。」「子どもの発言が出ず『授業時間が長い』と感じてしまう。」などといった声を耳にすることがあります。

昨年度の部会では、指導方法の工夫を生かした授業づくりについて研究をしてきました。その成果と課題から、子どもたちにとって、道徳の授業が“ときめく”時間になるためには、子どもが自ら考えたくなるような指導方法の工夫が必要だと考えました。

そこで、本年度は、子どもの意識のつながりに着目し、“ときめく”道徳の授業づくりについて部会で研究し、「ポイント」や「コツ」を共有していきたいと思いました。そしてこの会報では、子どもたちが“ときめいた”工夫を取り入れた実践を紹介しております。

II 今年度の部会運営について

【今年度の部会の流れ】

1 近況報告タイム

道徳や学級経営の悩み・疑問などを出し合います。

2 ワイガヤ座談会

出された悩み・疑問について耳を傾け、ヒントや解決策を出し合います。

3 演習タイム

「ねらいから『ずれる』『ずれない』」, 「『すべる』『すべらない』道徳の授業」などのテーマを設定して演習を行いました。特に道徳の授業での上手いかなかった事例を紹介して、よりよい発問や展開を検討することで、道徳の授業についての指導方法の「ポイント」や「コツ」を学び合いました。



資料提示の工夫

【主題名】「ひつじかいのこども」 1-(4)正直・誠実・明朗 (出典:「明るい心」 1年)

【ねらい】うそをついたりごまかしたりすると、信頼されなくなることに気づき、明るく誠実に行動しようとする気持ちをもつ。

【資料の概要】羊飼いの子どもは、自分の退屈しのぎに「狼が来た」と何度もうそをつく。最後には、本当に狼が来てしまう。

工夫のポイント

考える意欲を高めることができる工夫です。

どうしてうそをついてはいけないのだろう？

かんがえたことをどうとくじかんにおしえてね。



- ① 事前に資料を家庭で読ませる。
- ② 授業とする発問を事前に添付しておき、考えさせる。

- ・ 「明るい心」の資料をもとに、自作の紙芝居を作る。
- ・ うそをつき続けても、悪いことが起こらなくて話が終わる内容にする。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【事前活動】

とびで工夫!

- ① 「ひつじかいのこども」を家庭で読む。
- ② なぜうそをついてはいけないのか事前に考える。

事前活動のねらいは以下の2点である。

- ① 事前に学習内容を知ること、授業に対する意欲を高めることができる。
- ② 家庭学習にすることで、保護者と共に考えることができる。

【導入】

T:なぜ、うそをついてはいけないのでしょうか。

C:相手を嫌な気持ちにさせる

C:次は信じてもらえなくなる

T:うそをつき続けるとどうなってしまうと思いますか。

C:舌を抜かれる

C:最後には、絶対悪いことが起こるからうそはつかない方がいい

とびで工夫!

【展開】

自作紙芝居「もうひとつのひつじかいのこども」を読み聞かせる。

T:「もうひとつのひつじかいのこども」を読んでどう思いましたか。

C:悪いことが起こらなくても、他の人には迷惑を掛けているからやっぱりうそをついてはダメだと思う

C:心が真っ黒になっちゃう

C:うそをつくと、自分が嫌いになっていく

自分の心の内面に着目した意見が出てくるようになった。悪いことが起こるからではなく、自分が嫌な気持ちになるからうそをついてはいけないという気持ちを高めることができた。

【終末】

T:うそをつくと人に信じてもらえなくなってしまふから、うそをついてはいけませんね。

また、誰も見ていなくても、自分の気持ちに正直に行動することが大切だと思います。

子どもたちは、真剣に話を聞いていた。その表情から正直に行動しようとする子どもたちの気持ちを感じた。

発問の工夫

【主題名】「ナイス・シュート」 2-(3) 信頼・友情, 男女の協力 (出典:「明るい心」 5年)

【ねらい】主人公の気持ちを通して, 男女で協力することのよさに気づき, 目指す自分像をイメージしながら自分なりのステップを考え, 仲間と協力しようとする気持ちを高める。

【資料の概要】

男女が協力をしな
ため, けんかになり試合に



友達のチームの練習を見て悩

主人公は, 男子に「い
っしょに練習をしよう。」

工夫のポイント

主人公のよさを考える
ことができる工夫です。

- 「もしも～」と問いかけます。
- 主人公の行動自体を問いかけることで, よさを考えることができます。

【実践の内容】 (抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

T: 中津川野外学習で飯ごう炊さんやキャンプファイヤーをしている時どんな気持ちでしたか。

C: 楽しかった C: 苦しかった

C: みんなで協力することができた

導入で中津川野外学習のキャンプファイヤーで歌った「こげよマイケル」を聴いた。歌と共に子どもたちは, 中津川野外学習のことを思い思いに想起していた。

教師が, 読み物資料の「明るい心」を読み聞かせた。

【展開】

T: よし子さんのチームの練習を見ている時, 主人公はどんな気持ちでしたか。

C: 楽しそうだな C: うまいな

C: 男女のいきがっているな C: 仲がいい

C: すごいな C: いい雰囲気だ

C: 私たちのチームもあんなふうになれるかな

C: もっと練習をしていかないと

T: なぜ主人公は「いっしょに練習をしよう」と話しかけたと思いますか。

C: いっしょにやろうと思ったから

C: いっしょにやらないと楽しくないから

C: いっしょにやっていないとチームワークがないから

T: チームワークがあるとどうなる

C: みんなのモチベーションが上がってくる

T: モチベーションって何?

…しばらく沈黙…

C: モチベーションが上がるとみんながやる気になる

T: みんながやる気になるとどうなる

C: みんながうまくなって試合に勝てるようになってくる

男の子と女の子の場面絵を提示した。男女間の心の溝を視覚的に理解できるようにするために, 二人の距離を離れた。そして, 二人の距離を埋める気持ちを話し合っていた。

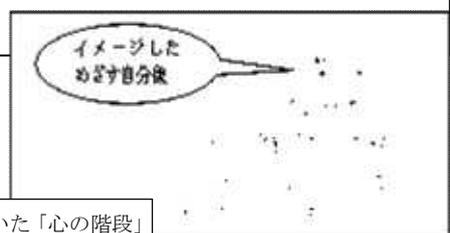
とどろく!

T: もしも男女が協力できなかつたら, 主人公の生き方はよくない生き方でしょうか。

男女が協力できていなくてもよい生き方であるとほとんどの子が答えた。この発問によって, 主人公のもつよさを再度確認することができた。

【終末】

T: 今日の授業を受けて目指す自分像をイメージして, 「心の階段」を作って発表しましょう。



児童が書いた「心の階段」

話し合いの工夫

【主題名】「サルとねる少年」 1-(5) 個性の伸長 (出典:「愛知に輝く人々1」〈県教振〉)

【ねらい】自分のよさを発揮するためにひたむきに努力することの大切さに気づき、よいところを積極的に伸ばそうとする気持ちを高める。

【資料の概要】

玉堂は「絵が上手だ」と教師にほめられる。

リアルな絵を描くためにサルと寝ようとして反対されるが、やり通す。

日本を代表する画家になっていく。

工夫のポイント

グループでの話し合いで自分のよさに気付くことができる工夫です。

《話し合いの手順》

- ① 自分で考えた、友達のよいところを話す。
- ② 友達のよいところをグループで出し合う。
- ③ グループ内で順番に回していく。

【実践の内容】4年生で実践(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

T:みんなは「よさ」という言葉を聞くと、どんなことを思い付きますか。

C:やさしいこと C:力持ちなこと

C:ドッジボールが上手なこと

日頃児童が感じている「よさ」について導入で想起させた。多様な意見を出させることで今後の活動に取り組みやすくするようにした。

教師が、読み物資料を読み聞かせていった。

【展開】

T:先生や書家に絵をほめられた時、玉堂はどんな気持ちでしたか。

C:うれしい

C:僕ってすごいな

C:そんなに誉められると思わなかった

C:僕にはこんな「よさ」があったんだ

役割演技を行い、資料に書かれているやり取りだけでなく、教師が会話を続けていくことで、方法だけでなく気持ちを引き出せるようにしていった。

T:反対されてもサルと寝ようとした時、玉堂はどんな気持ちでしたか。

C:もっとリアルなサルの絵が描けるからサルと一緒に寝たい。寝なくても写真でも見ることができ

C:いや、一緒に過ごしたり実際に触ったりすることでリアルな絵が描けるようになると思うんだ

T:でも周りも迷惑に思うよ。やっぱりやめなかな。

…しばらく考えて…

C:いや、僕はこの方法がいいと思ったから後悔が残らないように、できる限りのことをやってみたい

【終末】

 **ととて工夫!**

T:自分の「よさ」を発表しましょう。

【話し合いの手順】

4~5人のグループを組んだ。子どもたちの「よさ」をグループ内で伝え合った。まず、よさを伝える友達を一人決める。次に、決めた一人の友達のよいところを出し合っていた。さらに、この活動をグループ内で順に繰り返していった。

他人から自分のよさを伝えられることで、自分のよさを今まで以上に見付けることができた。そして、よいところを積極的に伸ばしていこうとする子どもの表情を多く見ることができた。

話し合いの工夫

【主題名】「一まいの色紙」 2-(3) 信頼・友情, 男女の協力 (出典:「明るい心」 5年)

【ねらい】主人公の気持ちを深く考えるを通して、相手の気持ちを大切に、互いに支え合っていこうとする気持ちを高める。

【資料の概要】



重い病気を抱えている「弘子」のことをクラスの友達が外見だけで判断して嫌ってしまう。



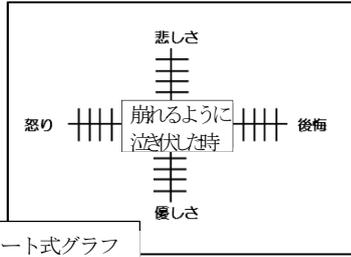
里子は、弘子のためにクラスの友達に思いを語り、泣きふす。



苦しい検査や大手術を乗り越えた弘子の枕元には、クラスみんなからの色紙が置かれている。

工夫のポイント

主人公の気持ちを深く考えることができる工夫です。



レーダーチャート式グラフ

《作成の手順》

- ① 主人公の気持ちを考える。
- ② 複雑な気持ちのバランスをグラフに表す。
- ③ グラフに表したその理由を書く。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

日本のオリンピック選手が寄せ書きのある国旗を持っている写真を提示した。

T:この写真のオリンピック選手は、この時どんな気持ちでしたでしょう。

C:メダルを取れて喜んでいる

C:練習を頑張ってきてよかったと思っている

C:いろいろな人に感謝している

教師が、読み物資料の「明るい心」を読み聞かせていった。

【展開】

T:弘子は、クラスの友達からどのように思われていたでしょう。

C:青白い顔をしていて、みんなから嫌われていた

C:転校してきた「里子」とは仲良くしていたので、腹が立っていた

C:弘子は里子と関わる時には元気で明るいのに他の友達との時は、はきはきしていないから嫌がられていた

ととて工夫!

T:崩れるように泣き伏してしまった時、里子はどんな気持ちだったでしょう。「レーダーチャート式グラフ」を使って主人公の気持ちのバランスを考えてみましょう。

C:弘子が苦しんでいることに、もっと早く気付けばよかったと後悔している

C:弘子が病気で苦しんでいるから、悲しく思っている

C:気付けなかった自分に対する怒りでいっぱいになっている

C:クラスの友達は、なぜ分かってあげないのか泣き伏した時の里子の気持ちのバランスを考えることで、子どもたちは里子の弘子に対する強い思いを深く感じる事ができた。

そして、その強い思いがクラスの友達の気持ちを変え、「一まいの色紙」という形につながり、弘子の支えになったこと気付く事ができた。

【終末】

選手が国旗の寄せ書きに支えられていたように、相手をほんの少し思う言動が、相手の力になる話をした。

書く活動の工夫

【主題名】「まち合わせ」 2-(3) 信頼・友情 (出典:「明るい心」 3年)

【ねらい】 友達と互いに理解し、信頼し合って、友情を大切にしようとする気持ちをもつ。

【資料の概要】



友達と待ち合わせをするが、約束の時間に正一が来ない。



かずやは正一を待つが、他の友達は先に病院へ向かってしまう。



正一が遅れて着く。3人も戻って来てくれ、みんなでお見舞いをする。

工夫のポイント

表情絵を描くことで誰でも自分の考えを表現できるようになる工夫です。



表情絵を描き、その表情になった主人公の気持ちを吹き出しに書く。

【実践の内容】 (抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【展開】

T:一人で正一を待つかずやはどんな気持ちだったでしょう。

C:正一君は本当に来るかな

C:正一君をおいていくななんてひどいな

C:正一君はきっと来るはず

正一を信じる気持ちと不安な気持ちが両方あることを確認した。また、ペープサートを使って動作化を行い、かずやの気持ちをイメージさせた。さらに、動作化を見てかずやの気持ちに対して「賛成」か「反対」かを、赤白帽子で意思表示した。

ととて工夫!

T:かずやが3人に会った時、どう思ったでしょう。ワークシートに自分の考えを書きましょう。

C:戻って来てよかった

C:正一君のことが気になっていたんだな

C:3人とも優しいんだな

C:うれしいな。やっぱり友達でよかったな

かずやの気持ちを表情絵で表すことで、最初の気持ちとの変化を視覚的に捉えた。文章を書くことが苦手な子に対しては表情絵だけをかかせて、その表情になった理由を問いかけた。

T:5人でお見舞いに行った時、みんなはどんな気持ちになったでしょう。

C:信じ合うことができたな

C:もっと仲良くなれたな

最後の場面で再度、最初の気持ちと比べた。最初の場面と比べると、友達のことを信じたり、友達とを感じる気持ちが大きくなったりしたとほとんどの子どもたちが答えた。

T:掃除に遅れてきた友達に対してどんな声をかけますか。

C:何かあったの?一緒に掃除しよう

C:遅れてきたのには理由があるんだよね、今からがんばろうよ

相手のことを信じて、思いやるような意見が出された。

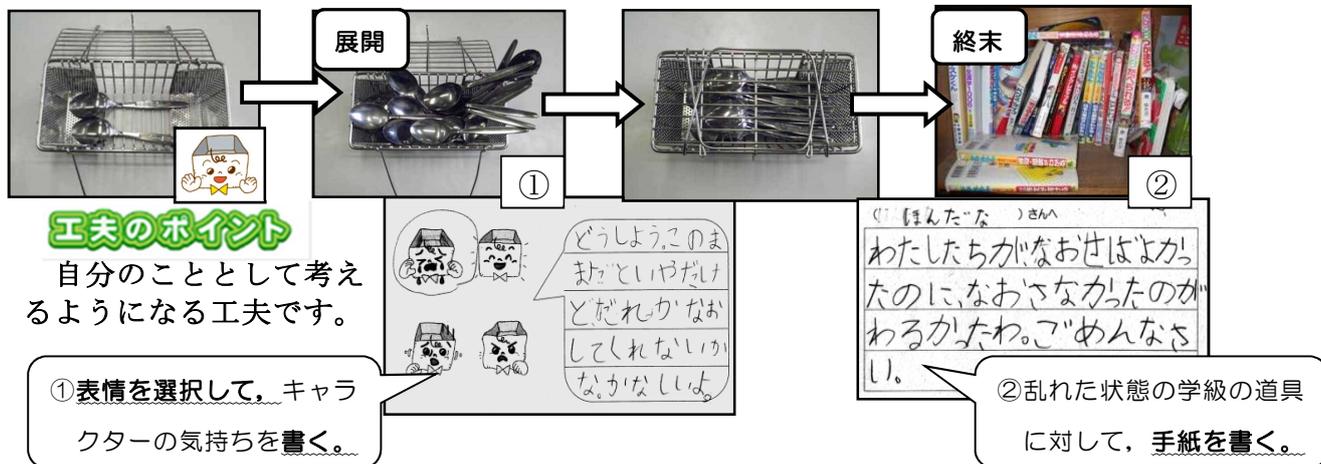
表情絵を使って、誰でも自分の意見を表現できるようにし、より意見を深めることで、ねらいに近付けることができた。

書く活動の工夫

【主題名】「ごちそうさまのあとで」4-(1) 公德心 (出典:「小学校道徳読み物資料集」1年)

【ねらい】キャラクター化したスプーンかごの気持ちを考える活動を通して、みんなで使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする気持ちを高める。

【資料の概要】スプーンが徐々に乱れていき、スプーンかごの表情も曇っていくが、みっちゃんやけんちゃんが直したことで、スプーンかごは笑顔になる。



【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

T:いつも大切に使っている物はなんですか。

C:おもちゃのブロック C:ゲーム機

C:学校のボール

【展開】

表情絵のついた写真を紙芝居形式で提示した。スプーンが乱れている写真と、その後けんちゃんがスプーンを整える写真からは、表情絵をなくした。

👉 ひと工夫!

子どもたちは、四つのスプーンかごの表情から一つを選び○をつけ、その気持ちを考えて吹き出しに書いていった。

T:スプーンがはみ出した時のスプーンかごはどんな顔で、何を考えているかな。

(笑った顔を選んだ子ども)

C:なんでこんな汚い入れ方をするの

(泣いた顔を選んだ子ども)

C:早く整頓してよ

C:悲しいな

T:きれいにしてもらっている時のスプーンかごはどんな顔で何を考えているかな。

(笑った顔を選んだ子ども)

C:本当にありがとう

C:けんちゃんは優しいな

表情を選んで気持ちを書くことで、多様な気持ちを考えることができた。

T:なぜ、けんちゃんやみっちゃんはスプーンを直したのかな。

C:スプーンかごくんがかわいそうだから

C:みんなで使っているものは、直さないといけないと思ったから

【終末】

👉 ひと工夫!

乱れた状態の本学級の本棚、靴箱、雑巾かけの写真を見て、手紙を書く活動を行った。

T:いつも使っている学校の道具に、お手紙を書きましょう。

(本棚の写真に対して)

C:直せばよかったのに、直さなかったのが悪かったね。ごめんなさい

学級の道具に手紙を書くことで、展開で気付いた考えを身近な問題に置き換えることができた。その後、本学級でも様々な道具を整頓している子が大勢いることを話した。

表現活動の工夫

【主題名】「ひつじかいのこども」1-(4) 正直・誠実・明朗（出典：「明るい心」1年）

【ねらい】うそをついたりごまかしたりすると、信頼されなくなることに気づき、明るく誠実に行動しようとする気持ちをもつ。

【資料の概要】

退屈をしていた羊飼いの子どもが村人たちにオオカミが来たとうそをつき、村人たちが本当にオオカミが来たとき、助けにくることを楽しんでた。ある日、本当にオオカミが来たが、誰にも助けてもらえず、後悔するという話である。

工夫のポイント

ペープサートを活用することにより子どもが登場人物になりきることができます。その時の気持ちを意欲的に発表し、自分のことと登場人物とを重ね合わせていき、ねらいに迫っていく工夫です。



【実践の内容】（抜粋）

〈T：教師の主な発問 C：主な子どもの発言〉

授業の【導入】が終わった後、このお話のあらすじを確認する発問をして答えさせ、話の内容を想起させていった。

【展開前段】

（羊飼いの子どもがうそをついて村人たちが助けに来た場面絵を貼る。）

T：羊飼いの子どもにうそをつかれた村人は、どんな気持ちだろう。

C：うそをつかれて嫌な気持ちになった

C：助けに行くべきだったが、オオカミがいなくてほっとした

ここでは、話の内容をつかんだ上で、場面絵の顔を見て、その表情から気持ちを考えた。

場面絵を見せて、発問した直後にペープサートの絵を提示した。

ペープサートを使った発表の様子①

T：再び「オオカミが来た」と聞いた村人は、どんな気持ちだったでしょう。

C：びっくりした

C：またうそだから助けに行かないでおこう



ペープサートを使った発表の様子②

T：オオカミが本当に来た時、羊飼いの子どもは、どんな気持ちだったでしょう。

C：うそをつくんじゃないか

C：うそをもうつかないから助けに来て



とどけ！

ペープサートを活用することで、児童の登場人物の気持ちを考える想像力と発表への意欲を高めた。

その後、「実はこのお話には、続きがありません。」と話しかけ、「羊飼いの子どもは森に逃げ込んで、オオカミから逃げることができました。」という話をした。

T：この時、羊飼いの子どもは何を考えたでしょう。

C：羊の世話をできるようになろう

C：もう一生うそをつかないでおこう

C：うそをついちゃいけないな

前の発問でペープサートを活用したことによって主人公と自分を重ねていき、ねらいに迫る発表を引き出すことができた。

【終末】

教師がうそをつかずによかった小学校時代の経験を話した。

表現活動の工夫

【主題名】 「シンガポールの思い出」 3-(2) 公德心 (出典：「5年の道徳」文溪堂)

【ねらい】 きまりについて考え、きまりを守るという気持ちを高めると共に、きまりがなくても気持ちよく生活できるようにしたいという気持ちをもつ

【資料の概要】

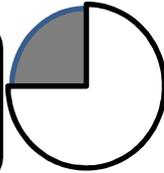
主人公はシンガポールから日本に帰ってきて、日本の町の汚さに改めて気付く。

シンガポールは罰金制度があったからきれいな町並みだったことを友達に話す。

「本当にそれでいいのか。」という友達の一言で、きまりについて考える。

工夫のポイント

発言したり、書いたりすることが苦手な児童でも、グラフを基に考えることができる工夫です。



- ① 左のような円グラフを配ります。
- ② 二つの対立する気持ちを色で表します。
- ③ 表した理由を発表し、話し合います。

【実践の内容】 (抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

T: 2枚の写真があります。何が違いますか。

C: シンガポールはとてもきれい

C: 日本はごみがあって汚い

まず、シンガポールの美しい町並みの写真を提示した。その後、市内のごみが散らかった道路の写真を提示して、見比べさせた。

【展開】

T: シンガポールから帰国して日本を改めて見たとき、私はどんな気持ちだったのでしょうか。

C: きたなくて驚いた

T: どうして驚いたのですか?

C: シンガポールがきれいだったから

T: なぜシンガポールはきれいだったの?

C: 罰金制度があったから

T: きまりを並びあげている時、私はどんな気持ちで丹野さんに話したのでしょうか。

C: シンガポールはこんなにきれいだ

C: 自慢気 C: 罰金はいいこと

C: 罰金があるから日本のように汚くない

T: 丹野さんの言葉が耳に残っている時、私はどんな気持ちだったのでしょうか。

ととて工夫!

赤: きまりをつくった方がよい

青: きまりをつくらなくてもよい

※以後 (赤: 青) で表示

C: きまりをつくり過ぎてはいけないし、全然ないのもいけないかな (3: 1)

C: 自由がなくなるとみんなが嫌な気持ちになるから青を多くした

(3: 1より少し青多い)

C: さっきまで真っ赤にしていたけど、今の意見のように、自由がないと息苦しいと思って青を入れた (10: 0 → 9: 1)

C: きまりをつくと自由がなくなるし、きまりがないと汚くなるから難しいな (1: 1)

C: 元々みんなの町だから、一人一人が考えて行動することが大切だ

心の円グラフを活用しながら、気持ちを考え発表させた。なぜその割合になったのかを詳しく話したり、友達の考えを聞いて割合を変えたりする児童も見られた。

【終末】

T: トイレのスリッパを自分から進んで整頓している子がいます。このような姿を見るととても気持ちがいいですね。そして、揃っているスリッパを見た人も気持ちよくなってきます。

表現活動の工夫

【主題名】「はしの うえの おおかみ」 2-(2) 思いやり・親切 (出典:「明るい心」1年)

【ねらい】 友達や幼い子に対して、温かい心で接し、親切にしようとする気持ちをもつ。

【資料の概要】



橋の上で小さな動物に意地悪をしていたおおかみ



ある日、自分より大きなくまに親切にされる



自分も他の動物に親切にするようになる

工夫のポイント

気持ちが変化した様子を深く考えることができる工夫です。

- ① おおかみがくまに抱きかかえられた場面を、子どもたちに演じさせる。
- ② 心変わりしたおおかみの気持ちをより深く考えることができるようにする。



使用したお面

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【展開】

T:「つよいつよいおおかみさまだぞ。」と言
ってうさぎを追い返したおおかみは、どん
な気持ちだったでしょう。

C:腹が立っている C:自慢している

C:いい気分

T:くまに出会って、あわてて「わたしがもど
ります。」と言ったおおかみは、どんな気
持ちだったでしょう。

C:怖い C:緊張してきた C:食べられる
と思った C:殴られると思った

(以下、不安、食べられる、など)

T:みんなさっきと全然違うね。どうして?

C:くまには勝てない T:勝てないと怖い

C:そう だって負けちゃうもん

T:「ほら、こうすればいいのさ。」と、くま
に抱き上げられ、後ろへ渡されたとき、お
おかみはどんな気持ちだったでしょう。

ととて工夫!

「力が強い方がえらい」という考えの子どもが多かった。この場面を代表児童にお面を付けて動作化させることを伝えて、演じさせた。

T:今くまさんに「どっこいしょ」ってやってもらってどうだった?

C:うれしい C:くまさんありがとう

C:気持ちいい

T:なんか、さっきは怖がっていたのに全然違うね。どうして。

C:優しくしてもらおううれしい

T:強い人からこんなことしてもらおうのってどう。

C:（「うれしい」「強いのにすごい」などの声）

T:「どっこいしょ。ほらね。」と、うさぎを抱き上げて道を通してあげた時、おおかみはどんな気持ちだったでしょう。

C:うれしい C:さっきはごめんね

C:どうぞ C:くまさんのやり方でやろう

T:くまさんのやり方はいいやり方なんだ。

C:そう

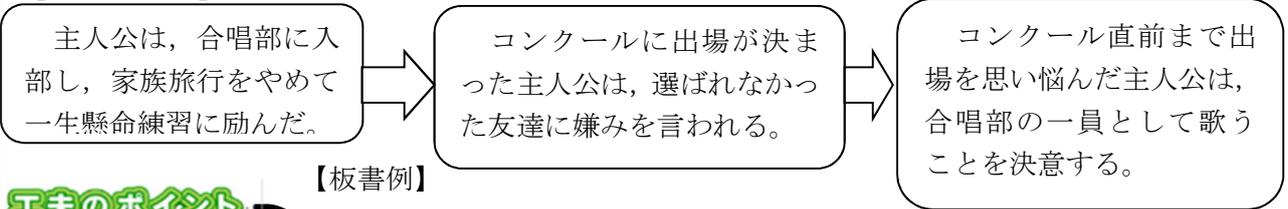
動作化してからおおかみの気持ちを考えたことにより、「力が強いものからやさしくされるとうれしい」という意見が出るようになり、みんなが優しくし合うことが大切だということを感じることができた。

板書の工夫

【主題名】「合唱コンクール」4-(3) 社会的役割の自覚と責任 (出典:「明るい心」6年)

【ねらい】他人の言動に動かされず、自分の役割を自覚することの大切さが分かり、責任を果たそうとする気持ちをもつ。

【資料の概要】



【板書例】

工夫のポイント

考えを深めることができる工夫です。

《プラスの気持ち》 ・プラスの気持ちを考えて理由	主人公の気持ち 	《マイナスの気持ち》 ・マイナスの気持ちを考えて理由
-----------------------------	-------------	-------------------------------

《作成の手順》

- ① 気持ちの意思表示をする。
- ② 意思表示をした理由を話し合う。

【実践の内容】(抜粋)

【導入】

T: 社会や学校、学級でどのような集団に所属していますか。

C: 日本 C: 学校

C: 図書委員会 C: 集会係

【展開】

T: 三人の中で一人だけ代表に選ばれたとき、主人公はどのような気持ちになりましたか。

ととて工夫!

選ばれてうれしい気持ちをプラスの気持ち、二人が選ばれず悪いなと感じる気持ちをマイナスの気持ちとして、心情曲線を使って意思表示をする。

プラスの気持ちとマイナスの気持ちを分けて、そのように考えた理由を答える。心情曲線を使った他者との情報の交流を通して、考えを深める話し合いができる。

《プラスの気持ち》

C: 練習を頑張ってよかった

C: 練習をした甲斐があった

C: 先生の熱血指導のおかげ

C: 家族も協力してくれた

《マイナスの気持ち》

C: 二人にごめんねという気持ち

C: ずる休みをした方が悪いのでは

心情曲線に気持ちの強さを表すときに主人公の人物絵を使い、主人公の思い悩む気持ちを視覚的に捉える。

T: 「まさか出るつもりではないでしょうね！」と友達に言われたとき、主人公はどのような気持ちになりましたか。

《プラスの気持ち》

C: 他人の意見でなく、自分は自分だから出る

C: 家族の協力がある C: 先生のおかげ

《マイナスの気持ち》

C: 二人との関係が悪くなる

C: きらわれたくない

T: 主人公は、どのような気持ちで会場の近くで隠れていたのでしょうか。

主人公が思い悩む気持ちをじっくりと感じ取らせるために、プリントに主人公の気持ちを書かせた。

《プラスの気持ち》

C: 出られなかった人のために出よう

C: 選ばれたことを誇りに思っている

C: 出ることが合唱部のみんなの気持ちだから

《マイナスの気持ち》

C: 出たいけど今までのことがあるから出ない

【終末】

委員会活動や掃除などの自分の役割を果たしている様子のスライドを見る。

板書の工夫

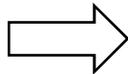
【主題名】「ぼくのたんじょう日」 3-(1) 生命の尊重 (出典:「明るい心」 2年)

【ねらい】主人公の気持ちを通して、自分の生まれてきたことを振り返り、生命を大切にしようという気持ちをもつ。

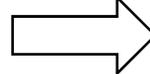
【資料の概要】



生まれた時の様子を尋ねる。



様子を話してもらう。



大切に育てられていることに気付く。

工夫のポイント

心情を視覚的に捉えることができる工夫です。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発問〉

[導入]

T:誕生日とはどんな日ですか。

C:みんながお祝いをする日

C:プレゼントがもらえる日

C:ケーキとかおいしいものが食べられる日

ととて工夫!

黒板を上下に分け、上半分をうれしい、下半分を悲しい気持ちとし、主人公の気持ちをグラフのように考えることにした。

教師が、読み物資料の「明るい心」を読み聞かせていった。

[展開]

T:お母さんからへその緒を見せられた主人公は、どんなことを考えたでしょう。

C:なんて不思議なものなんだ

C:まるで石みたい

C:どうしてこれが「いいもの」なんだろう

C:なんでお母さんはこれを大切に持っているのか

ととて工夫!

うれしい気持ちになっている主人公の気持ちが「いいもの」=へその緒であることを知り、気持ちが下降していくことをグラフで表す。

T: どうしてお母さんはへその緒や母子手帳を大切にもっていたのかな。

C: 家族の証だから

C: 自分とのつながりだから

T: つながりってどういうこと。

C: お母さんと自分がおなかの中で命をつないでいたこと

C: 大切な子どもだから

ととて工夫!

家族に大切にされていることや生きていることの素晴らしさに気付いたことで、前の発問で下降した気持ちが、再び上昇していくことを視覚的に捉えさせた。

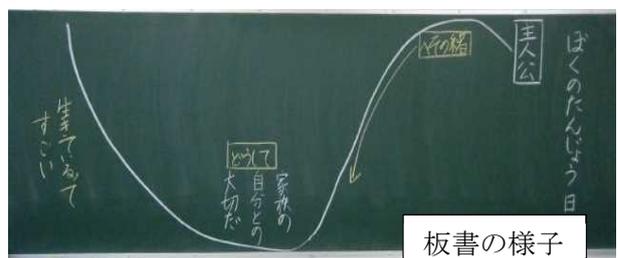
[終末]

T: 生きているってすごいなと思う時は、どんな時ですか。

C: 運動したり、勉強したりしている時

C: ご飯を美味しく食べている時

多くの児童は、自分が当たり前に行動していることは命あつてのことに気づき、命は大切にしようという思いをもつことができた。



板書の様子

平成24年8月27日
14:00~
名古屋市女性会館

名古屋市道德研究会主催の毎年恒例！！夏季道德講座が8月27日に行われました。「ネタの紹介」「模擬授業」「コツの伝授」と満載の内容で盛況の中で会を行うことができました。参加者が満足したことをうかがえるような多くの声をいただくことができました。

道德の授業達人の

「模擬授業」

実際に考えて、心を動かされた。

ポイントや流れが分かりやすい。模擬授業がおもしろい。

これからもさらに道德の授業を工夫したい。

自分も楽しめる生き生きとした授業ができるんだと感じた。



夏季道德講座を行いました。

参加者
75名

講座満足度
3.8
(4点満点中)

道德教育で使える 「ネタ」の紹介



2学期以降に生かせるアイデアを知ることができた。

いろいろなパターンを勉強できてよかった。



道德のフロによる 「ポイント」「コツ」の伝授

基本的な道德の授業の流し方について教えていただき、話し合いの広がり深まりの面での悩みに一つの答えをいただいた。



しっかりと計画を立てて道德の授業をやりたいと思った。

V おわりに

今年度の部会での研修をもとにして、子どもたちがときめく道徳の授業が生まれました。これらの実践が生まれた部会の様子を抜粋して紹介したいと思います。

第2回 (5/24)

「すべる?」「すべらない?」道徳の授業の分かれ道

和やかな雰囲気第1回目の部会を行いました。「あめ玉」(明る心4年)「こだまでしょうか」(金子みすゞ)などの資料を用いて演習を行いました。



ポイント

主人公の気持ちが大きく変わった所を考えさせると、子どもが生き生きと考える。

第4回 (7/18)

資料を「人ごとと感ぜない」道徳の授業のポイント

14名の参加者が集まり、第4回目の部会を行いました。グループ演習を中心にして、資料の出来事と子どもたちの心をいかに近付けるかについて話し合っていました。



ポイント

資料に隠れている子どもたちに結び付く根本的な問題点を探ることが大切。

第6回 (9/5)

ねらいから「ずれる?」「ずれない?」発問のコツ

「『内容項目』って何?」と用語から疑問をもち、演習を深めていきました。ねらいを考えるために学習指導要領に目を通す必要性も改めて確認することができました。



ポイント

子どもの様子を思い浮かべながら、いろいろな発言を予想して発問を考える。

今年度も多くの方に授業づくり部会に参加していただきました。「道徳の基本的な用語について理解することができた」「自分もっていた疑問を解消する手掛かりになった」

「道徳の授業をするのが楽しくなってきた」「演習で学んだことを明日からの授業にすぐに活用して子どもがときめいた姿を見ることができた」など前向きな感想を多く聞くことができました。

今後も子どもたちが「ときめく」道徳の授業を目指して、多くの「ポイント」や「コツ」を見付け、授業実践に取り組んでいければと思っております。

本年度のあゆみ

月	日	テ マ 研 究 部 会	授 業 づ く り 研 究 部 会
4	13	研 究 部 員 募 集	
5	8	研 究 部 員 総 会	
		テーマについての共通理解	道徳の授業づくりについて
	24	「規範」を構成する視点について 考えよう	「すべる?」「すべらない?」 道徳授業の分かれ道
6	14	「規範」をテーマとした 関連プログラムづくり	反応が「断片的?」「連続する?」 道徳授業のちがい
7	18	関連プログラム「規範」の 道徳授業づくり1	資料を「人ごとと感じない」 道徳の授業のポイント
8	22	関連プログラム「規範」の 道徳授業づくり2	
	27		夏季道徳講座 ・道徳教育に使える「ネタ」 ・道徳の授業達人による「模擬授業」 ・道徳のプロによる「ポイントやコツ」
9	5	授業研究の模擬授業1	ねらいから「ずれる?」「ずれない?」 発問のコツ
	20	授業研究の模擬授業2	「一瞬だけ残る?」「ずっと心に残る?」 導入のコツ
10	10	授業研究リハーサルへの参加	「授業研究」リハーサル
	16	道 徳 授 業 研 究 ・ 研 究 協 議 会	
	26	・授業研究の成果と課題についての検討 ・これまでの実践における成果と課題	話し合いが「きれいごと」に終始しない 道徳の授業のポイント
11	16	・研究のまとめ最終検討 ・研究発表会についての話し合い	「強引に?」「自ずと?」自己の生き方 を語る道徳の授業のちがい
12			
1	11	研 究 発 表 会 準 備 ①	
	15	会 報 発 行	
	21	研 究 発 表 会 準 備 ②	
	24	研 究 発 表 会 リ ハ ー サ ル	
	30	研 究 発 表 会	
2	8	次 年 度 へ の 方 向 性 の 検 討	
3			

※ 役員会 5/8 5/31 6/21 7/24 9/14 10/30 11/11・30
1/17 2/14 3/26

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

あ と が き

本研究会では、道徳教育に求められている課題を克服するためそして、教師一人一人の授業技術の向上とを目指して、平成17年度から大切にしてきたテーマ「心輝け！子どもたち」のもと研究を進めてまいりました。

「テーマ研究部会」では、道徳の時間を要とした「関連プログラム」を研究して3年目になりました。本年度は、今日的な課題でもある規範意識を高める指導について「関連プログラム」を構成し、実践、研究に取り組んでまいりました。生活指導ではなくて教科等と関わらせながら道徳の時間を要とした実践を提案することができました。「授業づくり部会」では、道徳の時間にうまくいかなかった事例を基に、その解決を話し合う部会を重ねてきました。この授業のどこがよくなかったのか、その原因は何か、どうすればねらいを達成できるのかを考えることで、自分だったら授業でこうしたいという思いが部員の中に芽生えてきました。会報では、部会で話し合ったことを参考にして、子どもたちが“ときめく授業”を目指して部員一人一人が実践した授業の一部を紹介させていただきました。

また、教育委員会から名古屋市内の小中学校各学級と特別支援学校小学部、中学部に配布された文部科学省監修の読み物資料を活用した公開授業を行いました。まだまだ実践例は少ないですが、今後も精力的に実践し、名古屋の先生方に伝えていきたいと思えます。

今後も心の教育が大切であることは変わることがありません。その期待に常に応えられるような研究会でありたいと思い共同研究を続けてまいりました。まだまだ十分に深めることができませんでしたが、ご高覧いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究会に対しまして格別なご指導、ご支援を賜りました先生方ならびに関係諸機関の皆様に心よりお礼申しあげます。

名古屋市道徳研究会委員長

千種小学校 三 浦 文 恵

会報作成資料提供者及び執筆者

竹川 加奈子 (田代小)	柳田 一帆 (福田小)
岡田 陽介 (田代小)	伊佐治 隆 (宝南小)
平子 晶規 (浮野小)	尾関 基秀 (小幡小)
畑 直哉 (城西小)	伊藤 みずき (小幡北小)
道祖尾 正幸 (名城小)	小出 禎 (上社小)
吉田 貴章 (八事小)	松下 恭平 (吉根小)
石田 恵将 (千年小)	大橋 広道 (緑小)
内山 幹夫 (神宮寺小)	大江 伸俊 (鎌倉台中)
児玉 香予子 (神宮寺小)	